

Monster Sound MX400.....ダイヤモンド・マルチメディア・システムズ p.222  
 Sonic Impact S100.....ダイヤモンド・マルチメディア・システムズ p.223  
 MN128-SOHO Slotin.....NTT-ME p.224  
 NetVolante RTA52i.....ヤマハ p.225  
 SY-61WM.....ソーヨーコンピューター p.226  
 CUWE.....ASUSTeK p.227

Painter6 日本語版.....メディアヴィジョン p.228  
 PhotoLoader 1.0 DCF.....カシオ計算機 p.229  
 Shade for Linux Preview Kit.....エクス・ツールズ p.230  
 読取革命2000.....松下電器産業 p.231  
 インターネット大変身・アクティブエディタ.....恒陽社 p.232  
 愛しのP級ソフトウェア  
 サムズプラス5.0J.....ビレッジセンター p.233



ダイヤモンド・マルチメディア・システムズ

# Sonic Impact S100

価格：オープンブライズ(予想実売価格4280円)



## POINT

ESS製Allegro搭載の2スピーカー用サウンドカード。Sensauraサポートで、2スピーカーでも効果的な3Dオーディオを実現している。

価格 オープンブライズ

### 問い合わせ先

ダイヤモンド・マルチメディア・システムズ  
 ☎03-5695-8401

サウンドチップ ES1989S

### ボイス数

ハード64ボイス+ソフトウェアボイス

対応バス PCI(2.1)

### インタフェース

ブラケット：ライン出力×1、スピーカー出力×1、ライン入力×1、マイク入力×1、MIDI/ジョイスティックポート  
 オンボードコネクタ：CD、モデム、Aux

### 対応システム

Pentium/90MHz以上、8MB以上(推奨16MB)のメモリ、16MB以上のHDD空き容量、PCIスロット

### 対応OS

Windows 95/98/NT4.0/2000、DOS

### コストパフォーマンス



### 機能性/操作性



### 総合評価



## 低価格ながら2系統の出力

ダイヤモンド・マルチメディア・システムズのサウンドカードには、Monster Soundシリーズのほか、より低価格でベーシックな機能をサポートしたSonic Impactシリーズがある。「Sonic Impact S100」(以下S100)はこのSonic Impactシリーズの新製品で、搭載チップはESS製のES1989S、Allegroと呼ばれるチップだ。3Dサウンド、ウェブテーブル音源などの機能を持つサウンドカードだ。

Sonic ImpactシリーズにはこれまでS70、S90の2製品がある。ESSのMaestro-2搭載のS70はSensaura、AurealのVortex搭載のS90はA3D 1.0と、いずれも3Dオーディオに対応していたものの、どちらも2スピーカーモードしかサポートしておらず、3Dの効果はそれほど強力ではなかった。4スピーカーモードをサポートし、派手な3Dサウンドが特徴のゲーム用ともいえるMonster Soundシリーズとは、位置づけが異なるわけだ。

S100も、これまでのSonic Impact同様、2スピーカーのみサポートのベーシックな機能を持つ製品

## 低価格ながら各種3Dサウンド対応のサウンドカード



MP3やWMAファイルの作成、管理ができ、Rioとの連携も可能な「RioPort Audio Manager」もバンドルされる

だ。デジタル出力もサポートしていない。ブラケット部にはスピーカー出力が2系統用意されているが、これはスピーカー出力とライン出力がそれぞれ1個ずつ装備されているもので、同じステレオ出力が違うレベルで同時に2系統に出力できるだけだ。3Dサウンドの4スピーカーモードには使えないが、ヘッドフォンとスピーカーを同時に接続したり、CDなどを4スピーカーで鳴らして疑似的サラウンドを楽しむにはいいだろう。

## 気軽に3Dサウンドを楽しめる

ウェブテーブル音源はチップに内蔵されず、ドライバと同時にインストールされるソフトウェアシンセサイザを利用する。再生時のCPU負荷率はPentium II/400MHzで常時7~9%程度と比較的低く抑えられているが、音質は今一つといった印象だ。ただしヤマハのソフトウェアMIDIシンセサイザ「S-YXG50」が付属するので、こちらを使えば問題ないだろう。

3DサウンドAPIはSensauraをサポートしており、DirectSound 3D、EAX 1.0/2.0、それにA3D 1.0にも対応している。DirectSound 3Dのハードウェアアクセラレーションの機能は、44.1kHz・16

ビットのCDクオリティのオーディオストリームを同時に16まで再生できるもので、ストリーム数からいえばずば抜けているわけではないが、価格帯から考えれば標準的なスペックといえるだろう。

ゲームでの3Dの効果はS70やS90よりも良好だが、A3D対応ゲームでのMX300や、EAX対応ゲームでのSoundBlaster Live!の効果にはわずかに及ばないようだ。残響の変化があまり感じられなかった。これはSonic Impactがゲームを重視したカードではないから仕方がない。それよりもこの価格、そして2スピーカーでこれだけ3D効果が楽しめれば十分といえる。4スピーカーは置き場所に苦勞することもあつた。それなりにコストもかかる。それを考えれば、2スピーカーながら3Dゲームも楽しめる低価格なサウンドカードを選択するのも一つの方法だろう。

(田澤仁/アクロバイト)



インターフェイスはライン出力×1、スピーカー出力×1、ライン入力×1、マイク入力×1、MIDI/ジョイスティックインターフェイスとシンプル